

窒素酸化物、浮遊粒子状物質の環境基準等の達成状況

環境政策局資料より

種別	測定局名	二酸化硫黄 (SO ₂)			二酸化窒素 (NO ₂)				浮遊粒子状物質 (SPM)		一酸化炭素 (CO)			光化学オゾン (O _x)	
		1日 平均値 (2%除外値) ppm	達成状況		1日 平均値 (98%値) ppm	達成状況			1日 平均値 (2%除外値) mg/m ³	達 成 状 況	1日 平均値 (2%除外値) ppm	達成状況		1時間値 の最高値 ppm	達 成 状 況
			環境基準	市保全基準		環境基準	当分の間の基準	市保全基準				環境基準	市保全基準		
一般局	市役所	0.006	○	○	0.026	○	○	×	0.042	○	—	—	—	0.122	×
	壬生	0.007	○	○	0.026	○	○	×	0.044	×	—	—	—	0.123	×
	南	0.007	○	○	0.033	○	○	×	0.041	○	—	—	—	0.119	×
	伏見	0.007	○	○	0.036	○	○	×	0.042	×	—	—	—	0.133	×
	山科	0.007	○	○	0.027	○	○	×	0.043	○	—	—	—	0.112	×
	左京	0.008	○	○	0.021	○	○	×	0.039	○	—	—	—	0.112	×
	西京	0.006	○	○	0.027	○	○	×	0.040	×	—	—	—	0.135	×
	久我	0.007	○	○	0.034	○	○	×	0.047	○	—	—	—	0.125	×
	北醍醐	—	—	—	0.024	○	○	×	—	—	—	—	—	0.087	×
自排局	南大宮	—	—	—	0.048	○	×	×	0.045	×	0.9	○	○	—	—
	山科	—	—	—	0.041	○	×	×	0.047	×	1.1	○	○	—	—
	上京	—	—	—	0.042	○	×	×	0.043	○	0.8	○	○	—	—
	西ノ京	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	桂	0.006	○	○	0.031	○	○	×	0.042	○	0.7	○	○	—	—
環境基準	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。			1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。				1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。		1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。			1時間値が0.06ppm以下であること。		
市保全基準	1時間値の1日平均値が0.02ppm以下であること			1時間値の1日平均値が0.02ppm以下、当分の間の基準は0.04ppm以下であること				環境基準と同じ		1時間値の1日平均値が5ppm以下であること			環境基準と同じ		

注1 表中の「環境基準」とは国の環境基準、「市保全基準」とは京都市環境保全基準です。
 注2 表中の—印は、測定を実施していないことを示します。
 注3 測定結果欄の1日平均値は、長期的評価による環境基準等達成評価の指標となる値（1日平均値の年間98%値又は年間2%除外値）です。二酸化硫黄については、環境基準は2%除外値で評価しますが、市保全基準は98%値で評価します。
 注4 達成状況欄の○は達成、×は非達成を示します。
 注5 SO₂、SPM、COは、環境基準を超える日が2日以上連続した場合にも非達成と評価します。

窒素酸化物、浮遊粒子状物質等の年平均値

環境政策局資料より

(平成22年度、平成23年度比)

単位 SO₂、NO₂、CO : ppm SPM : mg/m³

◎ 一般環境大気測定局				
測定局名				
年度	22	23	増減	
SO ₂				
NO ₂	年平均値			
SPM				

□ 自動車排出ガス測定局				
測定局名				
年度	22	23	増減	
CO				
NO ₂	年平均値			
SPM				

対前年度比較表示の方法			
項目	表示	横ばい	増加、減少
		(→)	(▲、▼)
SO ₂ 、NO ₂	0.005未満	0.005以上	
CO	0.5未満	0.5以上	
SPM	0.010未満	0.010以上	

北				
年度	22	23	増減	
SO ₂	—	—	—	
NO ₂	0.012	0.012	→	
SPM	—	—	—	

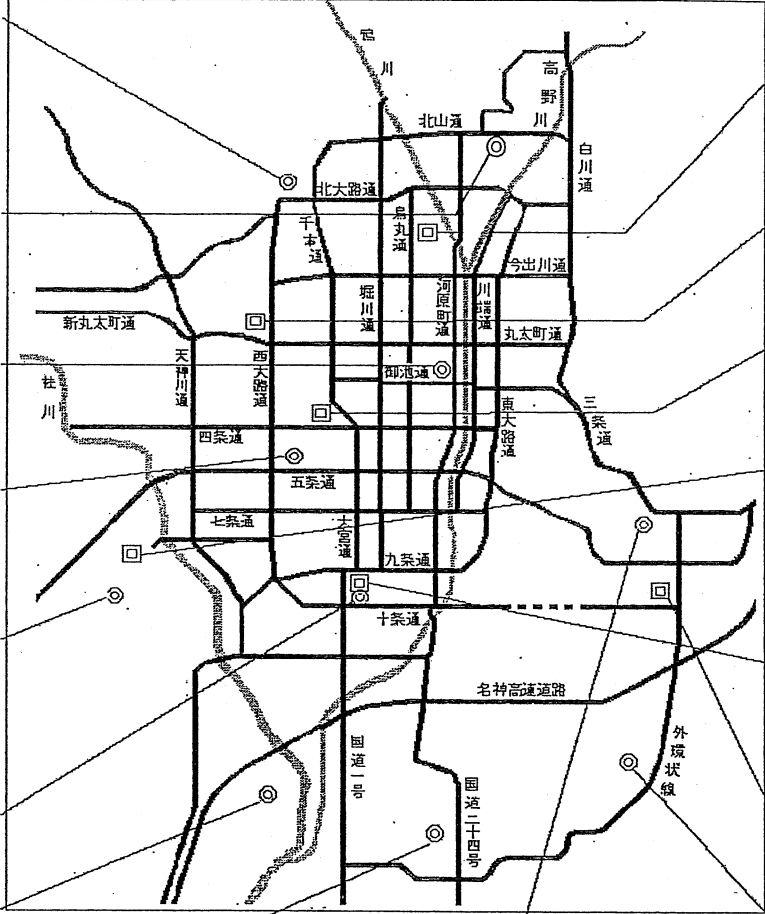
左京				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.011	0.009	→	
SPM	0.017	0.014	→	

市役所				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.014	0.013	→	
SPM	0.020	0.018	→	

壬生				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.013	0.013	→	
SPM	0.018	0.021	→	

西京				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.003	0.003	→	
NO ₂	0.013	0.013	→	
SPM	0.018	0.017	→	

南				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.005	0.004	→	
NO ₂	0.018	0.017	→	
SPM	0.017	0.016	→	



自排上京				
年度	22	23	増減	
CO	0.4			
NO ₂	0.014	休止中		
SPM	0.020			

自排西ノ京				
年度	22	23	増減	
CO	0.5	0.4	→	
NO ₂	0.018	0.017	→	
SPM	0.017	0.019	→	

自排大宮・北				
年度	22	23	増減	
CO	0.7	0.7	→	
NO ₂	0.030	0.029	→	
SPM	0.024	0.022	→	

自排桂				
年度	22	23	増減	
CO	0.4	0.3	→	
NO ₂	0.012	0.012	→	
SPM	0.019	0.018	→	

自排南				
年度	22	23	増減	
CO	0.6	0.5	→	
NO ₂	0.029	0.028	→	
SPM	0.023	0.022	→	

自排山科				
年度	22	23	増減	
CO	0.4	0.4	→	
NO ₂	0.026	0.025	→	
SPM	0.020	0.020	→	

久我				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.018	0.017	→	
SPM	0.020	0.018	→	

伏見				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.005	0.004	→	
NO ₂	0.019	0.018	→	
SPM	0.019	0.018	→	

山科				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.015	0.014	→	
SPM	0.018	0.017	→	

醍醐				
年度	22	23	増減	
SO ₂	0.004	0.004	→	
NO ₂	0.017	0.017	→	
SPM	0.019	0.017	→	

(参考) 一般局及び自排局の全市年平均値

測定項目 (単位)	測定局種別	年平均値	
		22年度	23年度
SO ₂ 二酸化硫黄 (ppm)	一般局 (9)	0.004	0.004
	自排局 (1)	0.004	0.003
NO ₂ 二酸化窒素 (ppm)	一般局 (10)	0.015	0.014
	自排局 (6)	0.022	0.022
SPM 浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	一般局 (9)	0.018	0.017
	自排局 (6)	0.021	0.020
CO 一酸化炭素 (ppm)	自排局 (6)	0.5	0.5
O _x 光化学オキシダント (ppm)	一般局 (10)	0.031	0.030

(注) 測定局種別欄の () 内は測定局数を示します。

(注) 平成23年度は自排上京局は休止中

環境基準及び市保全基準の達成状況

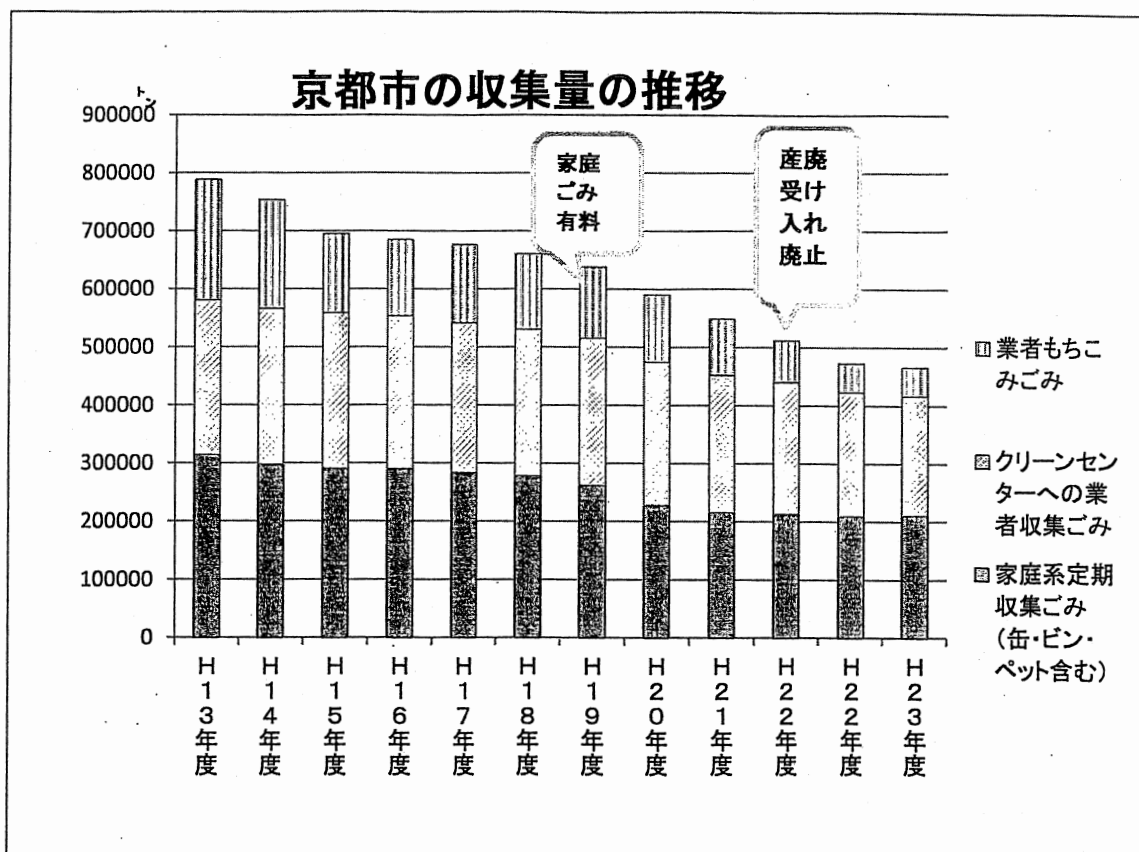
環境政策局資料より

河川名	地点名	75%水質値		環境基準達成状況					市保全基準達成状況			
		22年度 (mg/L)	23年度 (mg/L)	類型	基準点	基準 (mg/L)	22年度	23年度	類型	基準 (mg/L)	22年度	23年度
1 鴨川	1 高橋	0.7	<0.5	A	○	2以下	○	○	AA	1以下	○	○
	2 北大路橋	0.9	0.8	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	3 出町橋	1.2	0.5	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	4 三条大橋	1.2	0.8	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	5 勸進橋	1.4	1.0	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	6 鳥羽大橋	1.4	1.1	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	7 京川橋	1.5	1.0	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
2 白川	8 下河原橋	1.1	0.7	-		-	-	-	A	2以下	○	○
3 西高瀬川	9 天神橋	3.2	1.7	-		-	-	-	C	5以下	○	○
4 高野川	10 三宅橋	0.8	<0.5	AA	◎	1以下	○	○	AA	1以下	○	○
	11 高野橋	1.3	0.8	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	12 河合橋	1.2	0.7	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
5 岩倉川	13 千石橋	1.0	0.7	-		-	-	-	A	2以下	○	○
6 桂川	14 八千代橋	0.7	<0.5	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	15 渡月橋	1.0	1.0	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	16 西大橋	1.0	1.0	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	17 久世橋	1.0	0.8	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	18 羽東師橋	1.6	1.0	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	19 草餅橋	1.4	1.2	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
7 弓削川	20 寺田橋	0.9	<0.5	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
8 新川	21 上久世橋	1.5	0.9	-		-	-	-	A	2以下	○	○
9 西羽東師川	22 自動車試験場横	1.3	1.3	-		-	-	-	-	-	-	
10 有栖川	23 梅津新橋	1.4	1.1	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
11 天神川	24 原谷川合流点	0.5	<0.5	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	25 二条裏橋	0.9	0.8	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	26 西京極橋	1.3	1.2	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
12 御室川	27 三宝寺川合流点	0.7	0.6	-		-	-	-	A	2以下	○	○
	28 太子道橋	1.2	1.3	-		-	-	-	A	2以下	○	○
13 清滝川	29 落合橋	0.6	<0.5	AA	◎	1以下	○	○	AA	1以下	○	○
14 小畑川	30 中山橋	1.1	0.8	A	○	2以下	○	○	A	2以下	○	○
	31 京都市長岡京市境界点	1.3	1.0	A	◎	2以下	○	○	A	2以下	○	○
15 宇治川	32 餅月橋	1.2	1.2	B	○	3以下	○	○	A	2以下	○	○
	33 宇治川大橋	1.2	1.2	B	○	3以下	○	○	A	2以下	○	○
16 旧安祥寺川	34 金ヶ崎橋	1.6	1.3	-		-	-	-	A	2以下	○	○
17 山科川	35 新金ヶ崎橋	0.7	0.7	-		-	-	-	A	2以下	○	○
	36 伊野橋	4.2	3.5	-		-	-	-	C	5以下	○	○
18 七瀬川	37 仙石橋	1.9	1.9	-		-	-	-	-	-	-	
19 東高瀬川	38 新竹田出橋	0.7	1.0	-		-	-	-	A	2以下	○	○
	39 橋	1.3	1.3	-		-	-	-	A	2以下	○	○
20 久多川	40 川合橋	<0.5	<0.5	-		-	-	-	-	-	-	
21 芦火谷川	41 京都府滋賀県境界点	<0.5	<0.5	-		-	-	-	-	-	-	
22 百井川	42 大見川合流点	<0.5	<0.5	-		-	-	-	-	-	-	

注) 測定点については、◎は環境基準点を、○は環境基準補助測定点を表しています。

基準達成状況については、○は達成、×は非達成を表し、-は水域類型があてはめられていないことを表しています。

の地点については、国土交通省近畿地方整備局が測定しています。



(単位: トン)	家庭系定期収集ごみ(缶・ビン・ペット含む)	クリーンセンターへの業者収集ごみ	業者もちこみごみ
H13年度	315076	265321	208164
H14年度	297535	268802	187383
H15年度	291197	267495	136309
H16年度	290106	263592	131462
H17年度	283479	258260	134944
H18年度	278665	251867	130129
H19年度	262660	252884	122131
H20年度	228419	246061	116042
H21年度	216490	235453	97243
H22年度	213319	226704	71804
H22年度	210269	212723	50128
H23年度	211733	204645	50119

環境政策局：事業概要より

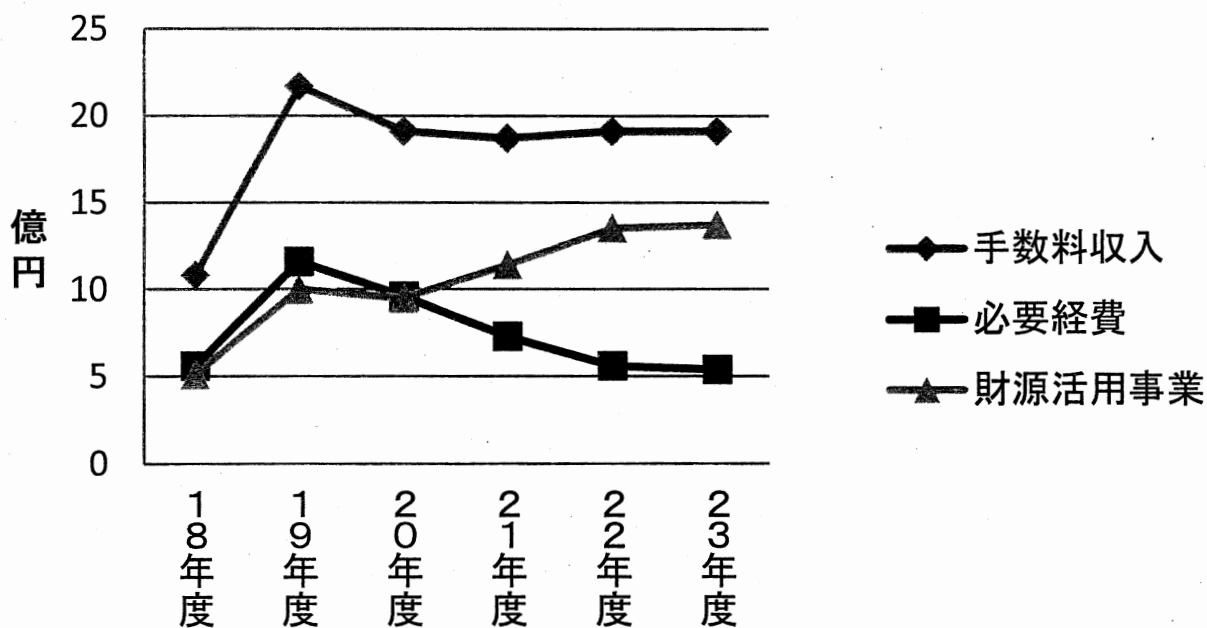
必要経費を大幅に上回るごみ袋の収入

(単位:千円)

	袋の販売による収入	製造・管理に要する費用	「基金」及び財源活用事業に要する事業経費	
				袋代収入比率
18年度	1081048	566058	514990	47.6
19年度	2170256	1168589	1001667	46.1
20年度	1916913	966482	950431	49.5
21年度	1872424	731144	1141280	60.9
22年度	1912240	561650	1350590	70.6
23年度	1917875	545261	1372614	71.5

環境政策局資料より

有料指定袋制による収入の活用状況(決算)



有料指定袋制の実施に伴う財源活用事業の決算額の推移

環境政策局資料より

1 総括表

(単位：千円)

項目	21年度決算	22年度決算	23年度決算
定期ごみ資源ごみ処理手数料 A	1,872,424	1,912,240	1,917,875
有料指定袋制導入必要経費 B	731,144	561,650	545,261
財源活用額 A-B	1,141,280	1,350,590	1,372,614

2 財源活用事業の内訳

(単位：千円)

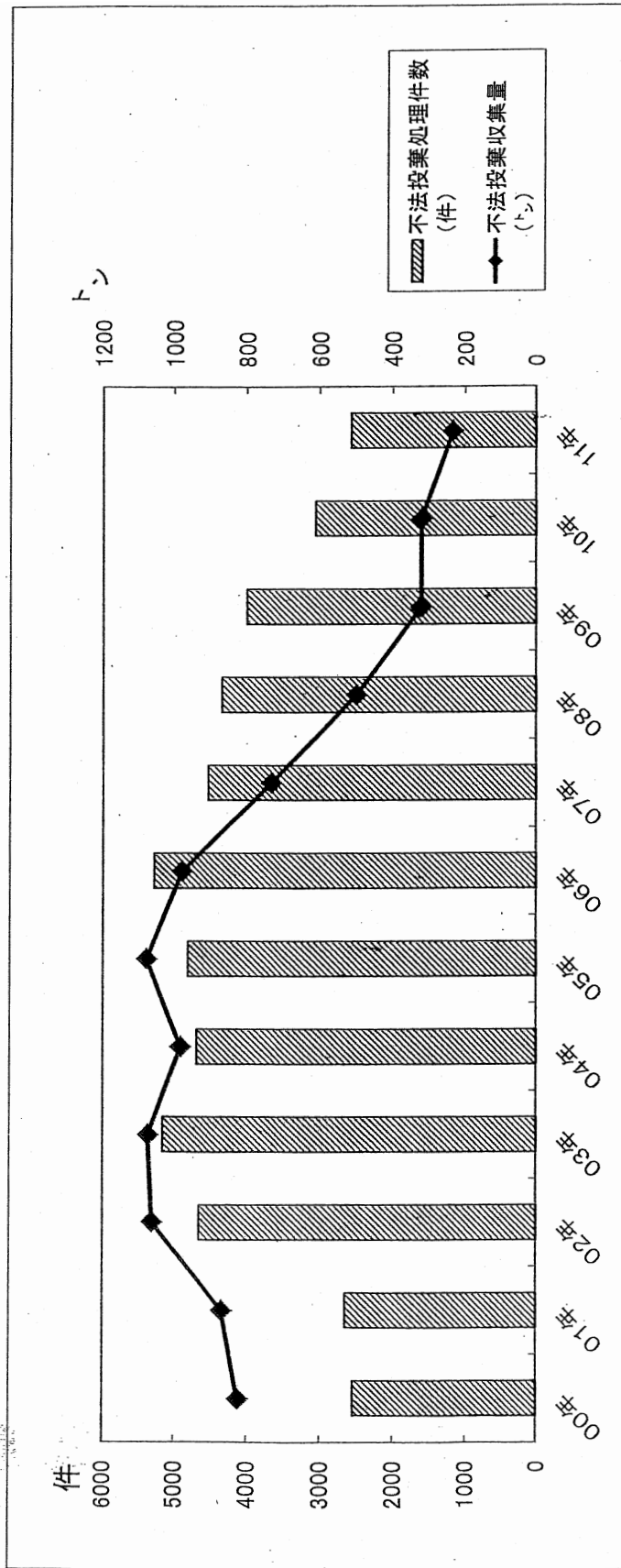
項目	主な事業内容	21年度決算	22年度決算	23年度決算
上流対策（発生抑制、再使用）の推進	<ul style="list-style-type: none"> 包装材削減推進京都モデルの構築 KYOTO エコマネーの創設 イベント等のエコ化の推進 生ごみ 3R 推進事業 不用品リサイクル情報案内システム運用 京の環境みらい創生事業 各区環境パートナーシップ事業 	45,561	50,286	76,982
ごみ減量普及啓発等	<ul style="list-style-type: none"> ごみの減量及び適正排出促進の普及啓発 環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」 第6回3R推進全国大会の開催 資源物の持ち去り禁止 	22,426	40,418	36,079
「京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）」進ちょく状況調査	<ul style="list-style-type: none"> 「京都市循環型社会推進基本計画」及び行動計画の達成状況等を把握するための調査の実施 	-	3,292	3,700
ごみ減量推進会議の活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごみ減量推進会議の活動支援 2R型エコタウン構築事業 市民公募型パートナーシップ事業 	39,200	34,522	38,132
ごみ減量活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ・落ち葉の堆肥化等の活動支援 コミュニティ回収制度 廃食用油燃料化事業市民回収支援 	78,912	82,910	81,282
資源物回収事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 資源物回収拠点の設置 リユースびん、蛍光管の拠点回収 小型家電リサイクルモデル事業 大型ごみのリユースモデル実施 移動式資源回収モデル事業 	31,551	33,670	64,993
空き缶、空きびん、ペットボトルのリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> 缶・びん・ペットボトルの資源ごみをリサイクルセンターで選別・再資源化处理 施設運営費として活用 	108,401	83,256	71,564
プラスチック製容器包装のリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効活用と地球環境負荷の軽減を図るため、プラスチック製容器包装の分別収集を実施 施設運営費として活用 	230,999	223,489	220,733

項目	主な事業内容	21年度決算	22年度決算	23年度決算
みんなのエコナビゲーター	・市民公募によるボランティアとともに環境保全に関する取組を推進	389	980	-
環境体験学習プログラム事業	・小学校高学年向けの環境体験学習プログラムとして、テーマに応じた学習教材等を提供	185	-	-
まちの美化活動への支援	・鳥類又は風雨などによるごみ散乱被害を防止するため、防鳥ネットの貸与を実施	7,125	11,331	12,971
不法投棄対策	・不法投棄監視体制を強化するため、監視カメラの貸与を実施	5,554	2,096	671
太陽光発電普及促進事業	・太陽光発電システム設置費用に関する助成	64,728	178,522	284,505
家庭部門における地球温暖化対策	・低炭素のモデル地区「エコ学区」事業 ・「DO YOU KYOTO?」プロジェクト147万人推進事業 ・環境にやさしいライフスタイルへの転換プロジェクト ・こどもエコライフチャレンジ推進事業	11,031	28,866	59,175
次世代自動車普及促進事業	・電気自動車を活用したカーシェアリング及び京都EVエコドライブラリーの実施	-	18,674	13,504
バイオマス活用推進	・生ごみコミュニティ堆肥化事業の推進等	33,166	3,365	4,139
「環境モデル都市・京都」推進事業	・「木の文化を大切にすまち・京都」シンポジウムの開催や、環境にやさしいライフスタイルへの転換に向けた社会実験等を実施	-	7,897	-
小計		679,228	803,574	968,430
他局活用事業	森の力活性・利用対策～地球温暖化防止森林吸収源対策～	50,631	43,281	52,893
	商店街街路灯LED化推進事業	-	-	9,889
	都市緑化事業（街路樹の整備～道路の森づくり～）	-	18,865	14,210
	地域産材普及供給体制整備事業	-	3,936	-
	平成の京町家普及・促進事業	-	3,885	-
	間伐材を活用した道路附属物の整備	6,939	6,129	-
	学校のエコ改修と環境教育事業	5,565	-	-
	右京から考える エコ交通～かしこいクルマの使い方～	566	-	-
小計		63,701	76,096	76,992
京都市民環境ファンドへの積立		398,351	470,920	327,192
合計		1,141,280	1,350,590	1,372,614

不法投棄の推移

環境政策局資料より

	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年
棄処理 件数	2539	2644	4655	5146	4686	4808	5268	4526	4334	3997	3057	2562
棄収集 量(トン)	823	867	1060	1071	982	1075	978	732	499	323	322	234



全国溶融施設の休停止一覧

(2012年11月)

「東京23区のごみ問題を考える」HPより

都道府県	自治体・広域組合	施設の名称	使用開始	休止・廃止年	理由
宮城県	仙台市	松森工場	2005年	2012年9月	スラグ利用が困難に。維持管理コストの膨張。炉床の消失。
埼玉県	狭山市			2001年～2003年の試運転結果で休止	
群馬県	太田市	太田市清掃センター	2005年	2009年	原油高騰により経費増加のため
東京都	東京23区清掃一部事務組合	中防灰溶融施設	2006年	7施設を2施設程度に縮小する	原発事故後から停止中。2012年7月に、電力需給が逼迫すること、スラグの需要にあわせた操業を行うことを決定した。
		品川清掃工場	2006年		
		多摩川清掃工場	2003年		
		板橋清掃工場	2002年		
		世田谷清掃工場	2007年		
		足立清掃工場	2005年		
		葛飾清掃工場	2006年		
		八王子市	戸吹清掃センター	1991年	2008年停止
	八王子市	戸吹清掃センター	1998年	2012年停止	スラグ利用減少、維持管理費の削減
千葉県	我孫子市	我孫子市クリーンセンター	1995年	2000年度末	エコセメントで1億円の経費削減が見込めるとして停止
神奈川県	横浜市	金沢工場	2001年	2010年休	経費削減、溶融前に資源化を実現
愛知県	尾張東部衛生組	環境セン	1998年	2006年休	
	衣浦衛生組合	クリーンセンター衣浦	1995年	2005年休	
	海部地区環境事務組合	八穂クリーンセンター	2001年	2010年休	
滋賀県	湖北広域行政事務センター	クリスタルプラザ	1999年	2003年	経費削減、談合問題
京都府	京都市	東北部クリーンセン	2001年	2008年停止	維持管理費が7年間で10倍に増えた
	城南衛生管理組合	クリーン21長谷山	2006年	2011年	電気エネルギー消費、維持管理コストの増加。温暖化防止。
兵庫県	篠山市	清掃セン	2002年	2008年休	経費削減のため
岡山県	岡山市	岡南環境センター	2003年	2011年休	「燃料コストが重い」ため
広島県	広島市	広島市中工場	2003年	2011年廃止	事故発生。運転管理、維持経費8億円にもなった。
山口県	下関市	奥山工場	1980年	2014年廃止予定	原発事故後、節電が求められた。溶融炉停止で余剰電力の売電、CO2削減につながった。
高知県	高知市	高知市清掃工場	2001年	2010年休	事故発生。維持管理費の増加

焼却灰溶融施設工事の遅延経過

環境政策局資料より

年月日	補修工事の内容
H 21 年 12 月 1 日	試運転開始。耐火レンガ不具合が発生し試運転が 2 ヶ月遅延。
H 22 年 2 月 6 日	2 号炉試運転中に耐火レンガ損傷が発生し補修を開始。プラント機器の養生不備があり、炉内に雨水が侵入し目地材の一部が溶け出した。
H 22 年 4 月 14 日	H 22 年 4 月 6 日に採取した排水から、基準値を上回るダイオキシン類が検出され試運転を中止。
H 22 年 4 月 26 日	住友重工が「ダイオキシン類対策は 2 ヶ月～3 ヶ月程度」であると想定し報告書を提出。さらに、工事遅延に伴う遅滞損害金を支払う意志を表明。
H 22 年 4 月 30 日	京都市が「6 月からの本格稼働の延期」を表明。
H 22 年 5 月 31 日	住友重工から工事遅延損害の支払い金額、完成後の検査に合格した日まで工事を延長する「確約書」が提出された。
H 22 年 7 月～H 23 年 1 月	ダイオキシン類検出の原因は、プラントの「設計ミス」「施工確認ミス」であった事が判明。ダイオキシン類対策工事が 7 ヶ月にも及んだ。
H 22 年 12 月～H 23 年 4 月	2 号炉耐火レンガの亀裂が発生し、二度目の補修を開始。5 ヶ月にも及んだ。
H 23 年 7 月 20 日～	2 号炉減温塔下のダストコンベアで灰が詰まり補修を開始。
H 23 年 10 月 12 日	2 号炉二次燃焼室に堆積したダストの塊りが冷却装置に落下し試運転を中止。労働者が負傷。
H 23 年 11 月 8 日	1 号炉二次燃焼室に堆積したダストの塊りが冷却装置に落下し試運転を中止。
H 23 年 11 月 29 日	市長が住友重工社長と協議。「時間をかけて総点検」を指示。
H 24 年 4 月 13 日	京都市と住友重工が協議。「対策案」が確立せず引き渡しの時期が明確にならないことが判明。
H 24 年 7 月 31 日	プラント設備の引き渡し期限を H 25 年 8 月末に決める。総点検を行い改善を要する機器は 30 台にも及んだ。

東北部クリーンセンターばいじん溶融炉の維持経費は10倍に

(環境局資料から)

プラズマ式 (24トン/日) 溶融炉が 2001 年～2008 年まで運転されていた。毎年、耐火物補修及び電極交換が行われ、煤塵コンベア、溶融排ガス用バグフィルター、プラズマトーチの整備が行われ、7 年間で 5 億 2 千万円もの維持管理費となった。多額の費用をかけながら、わずか 7 年で停止になった。

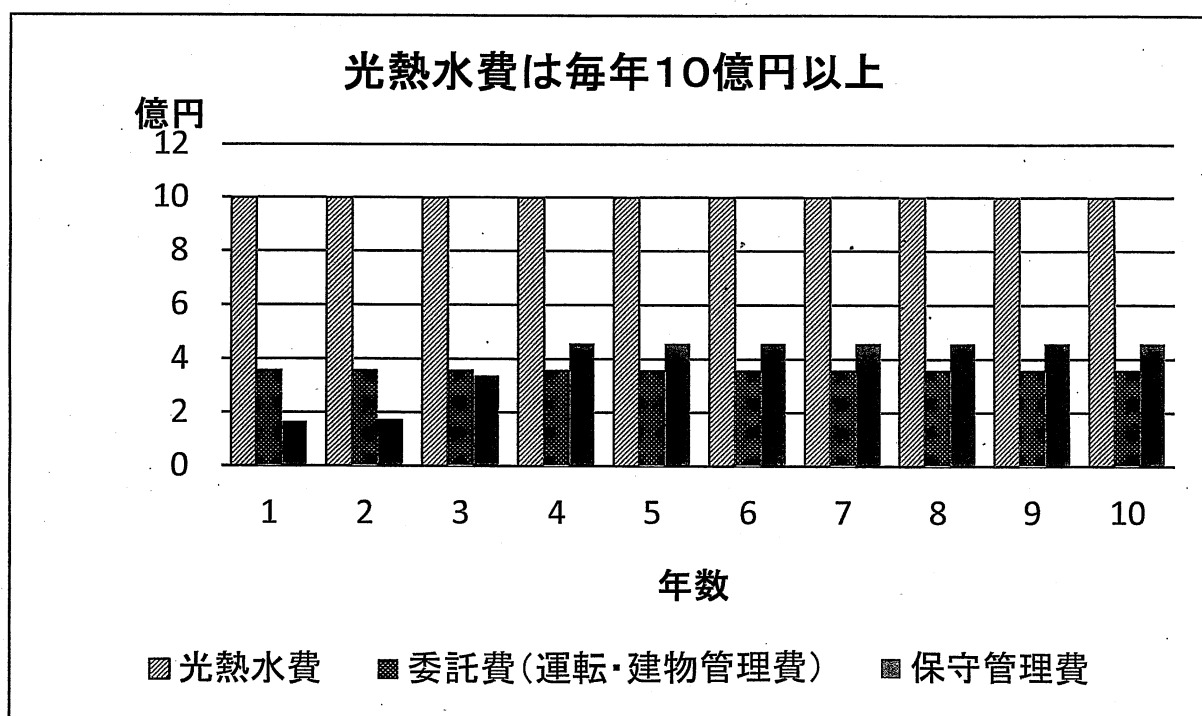
日本共産党議員団の追及で、1 年目は 1630 万円であったが、最終年度は 1 億 6570 万円に 10 倍であった事が明らかになった。

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
処理量 (トン)	1340	2032	2038	2302	2410	2193	938	13253
整備費用 (千円)	16,300	11,400	28,500	68,600	102,400	125,400	165,700	518,300

エコランド音羽の杜の焼却灰溶融施設は 20 年間で 560 億円

(環境政策局資料より)

施設の建設費が 180 億円。運営経費は 4 年目から毎年 19 億円、20 年間で 380 億円にもなる。光熱水費と薬品費は毎年 10 億円に。全国的にも光熱費、維持管理費コスト、スラグの利用減少を理由に停止している。



東部山間埋立地

「エコランド音羽の杜」搬入実績(平成24年度 環境政策局資料)

	焼却残灰	不燃ごみ(ト)	計(ト)
12年度	84,810	36,770	121,580
13年度	105,405	34,303	139,708
14年度	95,331	21,706	117,037
15年度	94,462	22,776	117,238
16年度	93,395	25,594	118,989
17年度	85,080	23,530	108,610
18年度	80,389	19,924	100,313
19年度	69,434	19,600	89,034
20年度	66,075	15,772	81,847
21年度	62,725	7,749	70,474
22年度	54,624	1,723	56,347
23年度	42,829	2,335	45,164
合計	934,559	231,782	1,166,341

12年度残灰は7月
から搬入開始

10月1日から告示産廃棄物の
受け入れを廃止

